

### 1 単元名及び単元の目標

ビーバーの大工事（4／18本時）

- ◎ 大事なところに気を付けながら文章を読み、読んで調べたことをまとめることができる。



【資料1 板書】

### 2 本研究授業の提案について

本時では、大事なところに気を付けながら文章を読ませるために、以下の二つについて提案を行った。

- (1) 写真や挿絵と本文を結び付けながら大事な言葉や事柄の順序に気を付けるために、ワークシートや付箋を活用した。事柄ごとに形式を統一したワークシートを使用したことにより、子供たちは順序を書く欄や付箋を貼る欄で迷うことなく取り組むことができた。順序を書く段階で、ほとんどの児童が順序については正しく捉えていたが、1文の中に順序を示す内容が複数含まれていたものを分けずにそのまま書き抜いてしまった児童が数名見られた。話し合いによって修正する際に、全てを書き直すのではなく番号を付けるなどの具体的な指導を行うことで簡単に直すことができ、時間を短縮することができたと思う。
- (2) 読み取ったり気付いたりしたことを交流する展開を授業の中に位置付け、多様な見方ができることに気付かせるように考えた。当初はペア学習で互いの考えを出し合い、その後全体で話し合う学習場面を予定していたが、子供たちがワークシートや付箋に書き込む時間が予想以上にかかり、ペア学習を省略して全体での話し合いのみになってしまった。全員が自分の意見を発表する機会を持たず、伝え合いという点では不十分であった。全体発表では意図的指名を行い、ビーバーがダムを作る順序及び驚いたことや伝えたいことについて話し合った。児童は、友達のことを聞いて自分の考えとの共通点や相違点、自分では気付かなかった点などに触れて考えを深め、足りない部分などをワークシートに書き込むなどの修正を行っていた。以上のことから、内容や気付きについて一人一人に考えさせたり考えを交流させたりする手では、大事なことに気を付けて読み、内容を正しく捉えさせる上で有効であったと考える。

### 3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 主体的に学習に取り組ませるためにはどのように単元を構成したらよいかを考えた。本単元では、第一次の段階で、ゴールのイメージを持たせてから学習進めた。それにより、児童は意欲的に取り組み、内容を理解することができた。そして、それを基に第三次での「動物のひみつクイズ」作りにつなげることができた。
- (2) 授業のねらいにせまるためには、児童の考えをしっかりと見取り、それを意図的指名につなげることが有効であると考え、授業を行った。本時において、児童は本文を読んで順序を捉え、ワークシートに書いていた。また、驚いたことや伝えたいと思ったことを自分なりの言葉で付箋に書いていた。しかし、机間指導で一人一人の考えを見取ることはできたものの、本文をそのまま書き抜いていた児童に対して気付かせるための適切な支援が十分にできなかった。

### 4 今年度の研究授業を振り返って

今年度は、昨年度に引き続き国語科で研究に取り組んだ。主体的に学習に取り組ませるためには、見通しと振り返りを意識した単元構成を工夫し、児童自身が何を学習しているのかを知り、さらに友達と力を合わせて学ぶこと、ゴールとして行う言語活動を設定して毎時間の学習がそれにつながっていくようにすることが重要であることが分かった。また、内容を正しく読み取らせるために適切な学習活動を設定すること、児童の実態を考慮した上で考える時間を十分に保障すること、ペア学習や全体での話し合いなどの交流や意図的指名が深く読み取る上で有効であると強く感じた。今後は、一人一人が確かな力を付けていく指導法についてさらに研究を深めていきたい。